

「佃漁民ゆかりの地碑」

大阪府大阪市

徳川家康公一行を渡船した働きに対して日本全国での漁を許された佃漁民たちは、明石や瀬戸内海、土佐湾にまで出掛けて漁を行った。また、佃漁民は、毎年11月から3月まで大阪佃から江戸に参府して献魚の役目を果たしていた。毎年の江戸詰めは、道中のわずらわしさと多くの困難があり、江戸在住を嘆願するにいたったという。そして、1612年に佃漁民ら34名が江戸に入った。当初は小石川の安藤対馬守屋敷内に住居を与えられ、1644年に隅田川河口の干潟を埋め立てて造成した地に移り住み、故郷にちなんで佃島と名付けた。

また、大阪冬の陣・夏の陣(1614～15年)の際に、佃漁民は大阪湾一帯の海上隠密方を家康公に命じられた。徳川方の隠密行動の諸士たちを船で助け、内海はもとより四国、西国あたりまでの情報を提供するにいたった。佃地域は水陸交通の要所であり、大阪から尼崎に行くには佃地域を抜ける道が最短であったことも、家康公が佃を大事にした背景の一つと考えられる。

寛永8年(1631)には、田蓑神社境内に末社として東照宮が置かれ、以来、家康公が祀られている。



石碑

みどころ



- 大阪天満宮：大阪市北区にある菅原道真公を祀る神社。道真公が太宰府へ左遷される際に参拝した大將軍社は、摂社として祀られている。毎年7月24日から25日にかけて行われる天神祭は有名。JR東西線「大阪天満宮駅」下車。
- 大阪城：大阪市中央区にある城。豊臣秀吉公が石山本願寺跡に築城。大坂夏の陣で焼失し、江戸時代には幕府直轄領に編入され再建された。昭和6年に再建された天守閣は、現在博物館施設(有料)となっている。JR東西線「大阪城北詰駅」下車。